

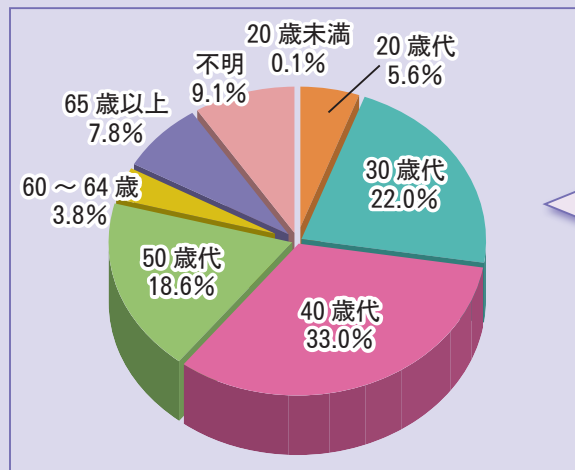
令和3年度DV相談・支援の状況

令和3年4月1日～令和4年3月31日

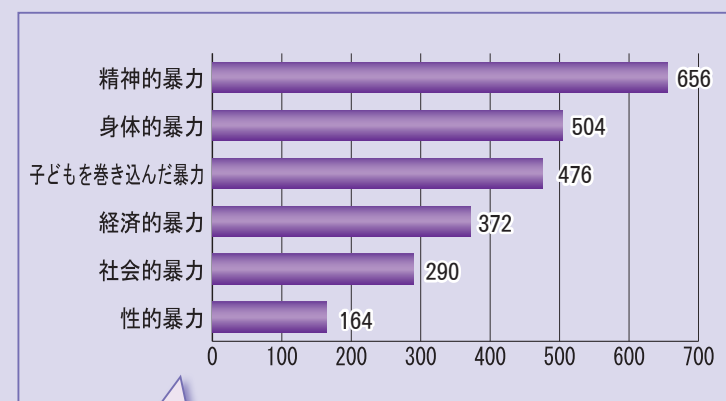
- 相談件数：本人、親族、知人、関係機関等からの相談件数とセンターからかけた電話件数を計上
- 対象者：夫、元夫、内縁、元内縁、交際相手、元交際相手からの被害者

電	話	4,885件
来	所	654件
その他（同行支援等）		394件
緊急ホットライン		104件
合	計	6,037件

相談者の年代



暴力の内容（複数計上）



暴力には様々な形態がありますが、何種類かの暴力が重なって起こる場合も多いです。精神的暴力は身体的暴力に比べ、他者から気づかれにくい傾向にあります。

この半世紀で、日本における家族のあり方はずいぶん様変わりしました。離婚したひとり親家庭が増えたことも、そのひとつでしょう。両親が揃っている家庭が子どもにとって望ましいと思う人もいれば、子どもに両親のいさかいを見せているより、離れて安全に暮らした方がお互いのためだと考える人もいます。自分の人生の舵をとるのは、自分しかいません。どんな選択をしても、社会の目を気にせず本人が自分らしくいられる、そんな社会であって欲しいと願っています。（T）

編集後記



この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ！



「あなたは一人じゃない」を伝えたい

パープルに彩られた二条城や京都タワーをご覧になられたことはありますか。11月12日～25日の「女性に対する暴力をなくす運動」の全国的な取組に合わせて、「女性に対する暴力根絶」を市民の皆様が発信させていただいています。パープルは、被害者に「あなたは一人じゃない」ことを伝え、励ます意味が込められています。今ご覧いただいている本通信もパープル色です。

本市では、平成23年10月に京都市DV相談支援センターを設置し、配偶者等からのDVに悩む女性の初期の相談から自立生活に向けた支援まで、相談者に寄り添った切れ目のない支援に努めています。とりわけ、昨今の新型コロナウイルス感染症の拡大は、雇用や生活面で女性に深刻な影響を及ぼしており、生活不安・ストレス・外出自粛等による在宅時間の増加・深刻化などから、全国的にDV相談件数の増加が顕著であり、令和3年度は、本DVセンターでも6037件もの相談対応を行いました。その中には、国が実施した臨時特別定額給付金や、ワクチン接種券の発行手続などをきっかけに、新たにDVセンターと繋がることができ、「早くDVセンターのことを知りたかった」との声もいただいています。

今後も、昨年9月に策定した「第5次京都市男女共同参画計画」に基づき、市民しんぶんや地下鉄広告、SNS等において広くあらゆる世代にDVへの関心を高めていくとともに、DVセンターの認知度の向上に努め、市民の皆様とともに、DV被害に遭う女性に「あなたは一人じゃない」との思いを伝えていきたいと考えています。

また、そうした支援を待つ被害者の方々の期待に応えられるよう、DVセンターはこれまで蓄積した経験と専門知識を活かした取組を強力に進めてまいります。

京都市DV相談支援センター長 太田 昌志（京都市男女共同参画推進課長）

DVに関する京都市内の主な相談機関（相談は無料です。）

内 容	相 談 機 関	電話番号・時間	相談方法
女性に対する配偶者・交際相手等からの暴力	京都市DV相談支援センター	075-874-4971 月曜～土曜日（祝日除く）9時～17時15分 075-874-7051 上記時間外【緊急ホットライン】	電話 面接（要予約）
男性のためのDV電話相談	京都市男女共同参画センター（ウイングス京都）	075-277-1326 第2・第4火曜日（祝日除く）19時～20時30分	電話
DV・人権問題・こころの悩みなど	https://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/page/0000264153.html		

子育て等に関する京都市内の相談機関

内 容	相談機関	電話番号・時間
子育ての悩みや児童虐待など	児童相談所虐待対応ダイヤル（通話料無料）	189（24時間対応）
	京都市子ども虐待SOS専用電話	075-801-1919（24時間対応）
	京都市児童相談所（南区・伏見区以外の方）	075-801-2929 平日（年末年始除く）8時30分～17時
	京都市第二児童相談所（南区・伏見区の方）	075-612-2727 平日（年末年始除く）8時30分～17時
	各区役所・支所 子どもはぐくみ室	https://www.kyoto-kosodate.jp/center

※ひとりで悩まないでください。あなたの電話を待っています。

わたしらしく

京都市DV相談支援センターを利用された方々に、現在の思いや、今被害を受けておられる方へのメッセージを自由に書いていただきました。

Aさん（50歳代女性）

私が子ども達と家を出るまで、元夫がいつ怒るか分からず、顔をうかがう日々でした。「貯金するな、俺の稼いだ金や、好きにさせろ」と趣味やお酒に散財し、小遣いを増やしても足りず、家計から捻出させられていました。

子どもが不登校になると態度が酷くなり、子ども達を叩いたり、酒に酔って暴言を吐かれたり、就寝中に怒鳴られたりされ、私はストレスで病気になりました。

限界に達した息子のために、元夫に家を出てもらい、転居先に毎日家事に通う生活が4年続きました。

頻繁に戻って来たり、威圧的に「ローンは払わない」「生活費を切り詰めろ」「その体で働けないでしょ」と言われて耐えられなくなり、弁護士相談に行きましたが、経済的不安から一旦断念しました。

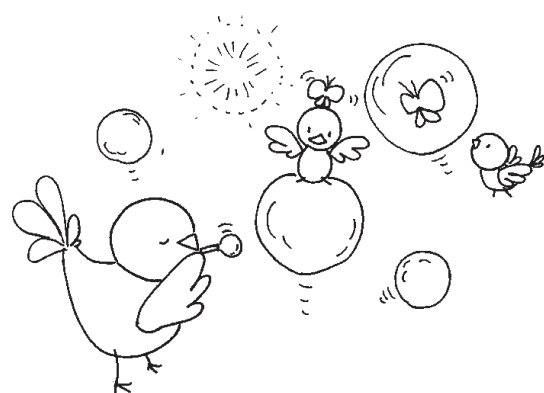
その後も「生活費は一円も出さない」「小遣いは使い尽くした」「お前の育て方が悪い」と叱責されて体が持たなくなってきた時、娘にDVセンターを見つけてもらい辿り着きました。相談員の方と話すうちに、私が悪いんじゃない、我慢してちゃいけないと考えられるようになった事が大きかったです。1年かけて慎重に準備をして無事に引っ越してからは、みるみる体調が良くなって仕事もできるようになり、弁護士の先生のおかげで調停で離婚が成立しました。

自分にこんな行動力があった事に驚いています。背中を押して励ましてくださったDVセンターに感謝したいです。

Aさんの娘さん

私は父から嫌な事をされていました。母が外に行く時は「ママが居ないと態度が変わる」と訴え、弟と一緒に連れて行ってもらいました。父が弟に殴りかかっても怖くて通報できませんでした。

不登校になった時は「お前もか、どうなるとんや!」「行ける高校無いやろな」と叩かれたりしました。仕事を退職して母を手伝ううちに、このまま続けたら母が死んでしまうと思い、調べてDVだと気づきました。母に付き添って、相談員の方にいろいろ教えてもらい、率先して計画を進めました。愛着のある家を出た時は少し寂しかったけれど、こんな穏やかなお正月は初めてだと感じた時の事は忘れられません。これでやっと自分たちの歩幅で進んで行けます。



Bさん（60歳代女性）

私は、夫から暴言暴力無視などを受けていました。夫を怒らせないように気を使って暮らしていました。それらは年々ひどくなり、私はもう限界に近くなってきていました。娘からDV相談支援センターに電話をするように勧められ、相談させて頂きました。辛い気持ちを聞いて頂き本当に救われました。

ある日夫からあまりにもひどい仕打ちを受け、私はこれ以上この家にいると壊れてしまうと思い家を出まし

た。結婚三十九年、六十四歳の時です。娘はもう絶対に家に帰ったらあかん、一緒に住もうと言ってくれました。夫と離れることができ、恐怖からは抜け出すことができました。

ところが一人では何も決められないし、とんでもないことをしたのではないかと悩むようになりひどく落ち込んでしまいました。そんな状態の時、DV被害者のグループワークに参加してみました。参加者の体験を聞き、辛い気持ちを乗り越えようとしている人がここにもおられるとわかり、またカウンセラーの話で落ち込むのも辛くなるのもDV被害者には起こって当然のことだとわかり、気持ちがずいぶん楽になりました。夫が私のことで娘に怒りを向けてきたので娘に迷惑をかけてはいけないと思い、一人暮らしをするための部屋を探しました。六十四歳の一人暮らしということで十数件断られましたが、やっと入居できる部屋を見つけることができました。すべて一人でできたことで、家を出て初めて私でもできるんだと思えた瞬間でした。夫任せだった確定申告を自分でできたこと、買うことも許されなかったパソコンも教室に通い習得できたことなどで、今まで否定され続けてきた私がこれからもやっていけそうだと思うようになりました。気持ちも前向きになってきました。DV相談支援センターに最初の電話をかけさせて頂いた時から、私らしくいられるようになった今に繋がっているのだと思います。ずっと支え続けて下さっているセンターの方に心から感謝しています。



相談員からひとこと

「何度もどうしようか考えて、ずーっと持っていたんです。」被害者の方が、手帳にはさまれたカードを相談員の前に取り出して、見せてくれました。役所などに置かれている、名刺サイズのDV被害相談のための啓発カードは、こすれて角がボロボロになっています。

「わかってもらえないのでは」、「何から説明したらよいのか」……、被害者の方がセンターに連絡されるまでの気持ちの揺れや葛藤をお聞きしながら、被害者の方がセンターに相談に来られるまでの道のりの険しさをひしひしと感じました。この小さなカードやパープルリボンのマークが付いたポスター・リーフレットが、「もしかするとこれってDVかなあ」と思っているひとりでも多くの人の目に留まり、センターに相談してみようと思ってもらえることを願っています。

(T)

